魅力発信！えひめ農業

令和6年 12 月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ（※1）で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1　掲載場所 ： ホーム ＞ 仕事・産業 ＞ 農業 ＞ 農産園芸課 ＞ 農産物の生産振興
※2　この動向は、12 月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570
愛媛県松山市一番町 4 丁目 4-2
（TEL） 089-912-2558
（FAX） 089-912-2564
http://www.pref.ehime.jp/noukei/

目次

目次 1
12 月のトピックス５選 3
やまのいも「やまじ丸」を道後温泉宿泊施設の調理師に PR 3
いちご７ｔどりに向けた栽培実証の中間結果を報告 3
青年農業者と農業振興局長が意見交換 4
ブロッコリーの産地振興に向け、徳島県の産地と意見交換を実施 4
「楽して儲かる農業」をめざして 5
えひめ農業 6
■東予地方局　地域農業育成室 6
丹原高校で GAP 学習会を実施 6
小学生を対象に「リアル農業体験」を実施 6
新規栽培希望者へ「ひめの凜」を説明 7
■東予地方局　地域農業育成室　四国中央農業指導班 7
ブランド茶「結の霧ひめ」で「うま茶」の販路拡大・PR 7
農業女子が出前授業で農業の魅力発信 8
■東予地方局　産地戦略推進室 8
いちご栽培環境モニタリングデータ活用実証プロジェクト勉強会を開催 8
■今治支局　地域農業育成室 9
大型直売所の隣にいちご観光農園がオープン 9
４ｔどりを目指すための新たな取組みを周知 9
農福連携による収穫作業体験会を開催 10
次年度のさといも栽培希望者説明会の開催 10
■今治支局　地域農業育成室　しまなみ農業指導班 11
上島町生活研究グループ員が６次産業の成功事例を学ぶ 11
しまなみ農業指導班・岩城駐在所で、中学校１年生が農業体験 11
■今治支局　産地戦略推進室 12
しまなみイタリア野菜イベントを開催 12
■中予地方局　地域農業育成室 12
土着天敵を施設トマト・きゅうり栽培にも導入 12
JA 新規就農研修センターにおける研修生の就農支援について協議 13
農福連携の推進に向けた施設支援員の技術力向上 13
■中予地方局　地域農業育成室　伊予農業指導班 14
集落営農組織が優良農事組合法人で研修 14
伊予農業高校で就農啓発活動 14
■中予地方局　地域農業育成室　久万高原農業指導班 15
ピーマンの肥料コスト低減に向けて 15
上浮穴高校生が雑穀の脱穀作業を体験 15

■中予地方局　産地戦略推進室 16
さくらひめ第１回現地検討会を開催 16
■南予地方局　地域農業育成室 16
郷土料理づくり等で小学生と交流 16
鳥獣害対策の技術向上を図る！ 17
■南予地方局　地域農業育成室　鬼北農業指導班 17
調理における衛生管理を再確認 17
食味良好！鬼北産「紅まどんな」 18
農業の担い手確保・育成に係る研修枠組みを検討 18
■南予地方局　産地戦略推進室 19
端境期出荷を促す栽培講習会（第２弾）を開催 19
正品率向上を目指して梅の樹形改造を推進 19
■八幡浜支局　地域農業育成室　大洲農業指導班 20
いちご天敵放飼で秋冬季害虫を防除 20
■八幡浜支局　地域農業育成室　西予農業指導班 20
バキューム式収穫システムでゆず収穫・運搬作業を省力化 20
温暖化に対応したキウイフルーツのせん定講習会を実施 21
■八幡浜支局　産地戦略推進室 21
さといも試食を通して栽培面もPR！ 21
媛小春栽培マニュアル策定に向け各技術の実証ほ設置と調査開始 22
■農産園芸課　高度普及推進グループ 22
首都圏で若手普及指導員の流通・販売研修を開催 22
第２回普及指導員果樹調査研究会及びJA愛媛果樹技術指導員会を開催 23

12 月のトピックス５選

標　題	やまのいも「やまじ丸」を道後温泉宿泊施設の調理師に PR		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和６年 12 月 11 日	場所	道後温泉旅館協同組合	
指導対象	やまじ丸生産振興協議会	連携機関	JA うま	
普及指導内容	○道後温泉宿泊施設における「やまじ丸」の利用促進に向け、道後温泉調理師会の役員（12 人）に、「やまじ丸」の生産状況や特長等を説明し、宿泊施設の食事メニューへの利用について PR 活動を行った。 ○特に、「やまじ丸」の強い粘りや、レジスタントスターチを豊富に含むことを PR するとともに、この特長を生かし、すりおろしたやまじ丸をバイキングメニューの１品に加えることができないか提案した。			
結果と今後	○今回持参した「やまじ丸」と、すりおろしてパック詰した一次加工品（冷凍）を手に取って確認してもらったところ、一次加工品は調理の手間が省けるため関心が高く、「調理の工夫次第で提供原価が抑えられる」などの意見があった。 ○今後も「やまじ丸」の知名度向上に向け、イベント等での PR や宿泊施設等での利用促進に向けた活動を行う。			

左：「やまじ丸」とレシピ集、PR 用チラシ

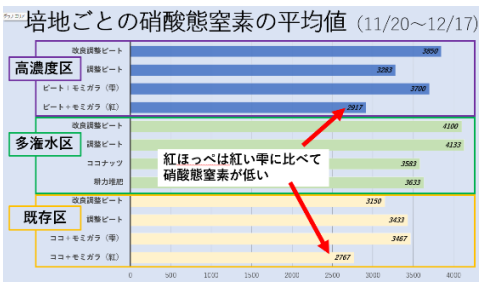
右：「やまじ丸」の一次加工品（冷凍）

※「やまじ丸」：四国中央市で生産された県育成品種「やまじ王」を、JA うまが商標登録、「愛」あるブランド産品の認定を受けている。

標　題	いちご７t どりに向けた栽培実証の中間結果を報告		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月 24 日	場所	今治市中寺	
指導対象	農事組合法人　サポート中寺	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○いちごのハウス高設栽培で反当７t 収穫を可能にする生育条件を明らかにするため、培地の組成や養液濃度、かん水量、ハウス内環境等を検討する栽培実証の中間結果をまとめ、栽培者等に報告した。			
結果と今後	○実証に取り組む集落法人では、昨年度から、培地量や組成等が従来とは異なる独自の高設システムで栽培しているものの、十分な収量を得ることができていなかった。 ○廃液や植物体の硝酸態窒素濃度等の調査から、培地や品種により適正な養液濃度が異なることや、各区で従来よりも高い養液濃度や給液量が必要となっているほか、養液濃度を高めても第一腋果房の花芽分化や生育に悪影響はなく、10 月以降のハウス内温度が高くなった場合に第一腋果房の花芽分化が遅れていること等を説明した。 ○今後も引き続き実証データを基に高収益に必要な栽培条件について考察していく。			

実証ハウス（右：高濃度給液区）

養液・排液濃度の調査



実証結果の説明資料

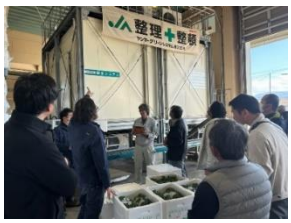
標　題	**青年農業者と農業振興局長が意見交換**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月６日	場所	松山市難波	
指導対象	松山市青年農業者連絡協議会北条支部「ＨＡＰＰ」(21 人)	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	○松山市北条地区の青年農業者と県農業振興局長が、農業施策や各種補助金等について意見交換会を開催した。 ○局長からは農業を取り巻く情勢の変化や食料、農業、農村政策の新たな展開等について講話し、その後、青年農業者が日頃抱えている地域農業の問題点や組織活動の在り方などについて活発な意見交換を行った。			
結果と今後	○青年農業者からは、「経営安定には、農産物の適正な価格形成が必要」「新規就農者の確保・育成支援の予算を十分確保してほしい」「組織活動の魅力をもっと発信したい」などの質問や意見が交わされた。 ○同組織は、新規就農者の確保対策やラジオ番組での情報発信、異業種との情報交換、学校給食への提供など多岐にわたる活動を実践しており、引き続き組織活動の支援を通じて担い手の育成に努める。			

【HAPP】
旧北条市の青年農業者 39 人で構成。
Hojo Agriculture Professional Production の略

県農業振興局長との意見交換

多くのメンバーが参集し議論

標　題	**ブロッコリーの産地振興に向け、徳島県の産地と意見交換を実施**		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和６年 12 月２日	場所	JA 徳島県阿波市営農経済センター	
指導対象	JA えひめ南南宇和野菜部会員（10 人）	連携機関	JA えひめ南、愛南町	
普及指導内容	○水田の有効利用品目として振興しているブロッコリーについて、生産拡大が進む JA 徳島県阿波市の支援体制等の情報を収集するため視察を行った。。 ○同 JA 管内は地域一体でブロッコリーの増産を強力に推進しており、適正品種の選定や根こぶ病対策等の技術指導に加え、規模拡大に向けた支援策として、畝立て施肥等の作業受託に取り組み、栽培面積が拡大している。 ○当日は、集荷場や育苗施設において、集出荷体制や育苗管理等の説明を受けた後、生産技術や支援策等について意見交換を実施した。			
結果と今後	○参加した生産者や関係機関職員からは「収穫時期やほ場条件に応じた栽培が徹底されており、今後の参考にしたい」「本事例を参考に支援策を検討していきたい」等、今後の支援体制の構築に向けた意識の向上が見られた。 ○今後、引き続き、省力栽培体系の確立を目指し、規模拡大に向けた支援体制について関係機関と協議していく。			

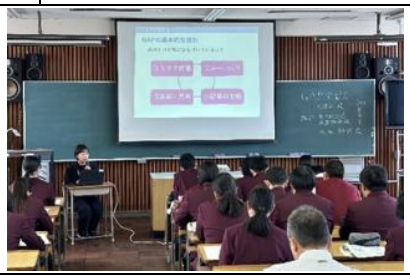


左：集出荷体制の聞き取り
中：育苗管理の方法等を確認
右：支援策等について意見交換

<table>
<tr><th>標　題</th><th colspan="2">「楽して儲かる農業」をめざして</th><th>機関名</th><th>八幡浜支局地域農業育成室</th></tr>
<tr><td>年月日</td><td>令和６年 12 月６日</td><td>場所</td><td colspan="2">伊方町三崎「紅まどんな」施設・ほ場</td></tr>
<tr><td>指導対象</td><td>シトラスファミリー会員(三崎地区家族経営協定組織)(19 人)、三崎地区果樹同志会員(３人)</td><td>連携機関</td><td colspan="2">伊方町、JA にしうわ</td></tr>
<tr><td>普及指導内容</td><td colspan="4">○三崎地区の若い農業者が「楽して儲かる農業」の取組みとして、低コストハウスの建設による「紅まどんな」栽培を検討しており、その技術を学ぶ研修会を開催した。
○研修会では、しまなみ地区で先進的な取組みを行っている講師から、風向きや園地条件を踏まえたハウス建設のポイントや収支計画等についてアドバイスをいただいた。
○また、地区内で既に取り組んでいる園地を巡回し、栽培状況等について情報交換を行った。</td></tr>
<tr><td>結果と今後</td><td colspan="4">○講師からハウス建設のポイントだけでなく、建設経費や建設後の収益シミュレーションを学べたことで、経営改善ビジョンを描くことができ、ハウス建設に向けて更に前向きになったことが伺えた。
○今後、ハウス建設に向けて、園地条件に応じた支援をしていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">
左：講師からアドバイスを受ける会員
右：低コストハウス建設予定園</td></tr>
</table>

えひめ農業

標　題	丹原高校で GAP 学習会を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月４日	場所	愛媛県立丹原高等学校	
指導対象	愛媛県立丹原高等学校２年生(22 人)	連携機関		
普及指導内容	○ブドウの GLOBALG.A.P.取得モデル校である丹原高校の生徒を対象として、GAP について理解促進を図るため、学習会を実施した。 ○GLOBALG.A.P.認証取得には毎年更新が必要で、丹原高校では主に３年生が審査を受けているため、来年度審査を受ける２年生を対象に概要や進め方、実践方法を説明した。 ○実践方法の説明では、ブドウの収穫作業と照らし合わせながら、リスク評価表の作成方法や資材の管理方法、適切な服装等について解説した。			
結果と今後	○GAP の目的や効果、自らが取り組む必要性について、理解を深めさせることができた。 ○２年生は、来年の審査に向けて、適切な農場管理を進めながら知識を深めていく。当室は、今後も、同校での学習会等を通じ、更新審査に係る支援・指導を行うこととしている。			



GAP の実践方法についての説明

標　題	小学生を対象に「リアル農業体験」を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月５日	場所	新居浜市船木地区	
指導対象	新居浜市立船木小学校５年生 (60 人)	連携機関		
普及指導内容	○地方局予算事業「デジタルを活用した地産地消・食育推進事業」において、地元の農業・農産物への理解促進を目的に、先に実施した「デジタル農業体験」と一体的な活動として、生産現場で生産者から農業について学ぶ「リアル農業体験」を実施した。 ○当日は、生産者の説明の後、小学生がニンジンを収穫し、洗浄、袋詰め、シール止め等、実際に販売される形になるまでの一連の作業を体験した。 ○当室からは、農業関係の用語や講義の内容を分かりやすく解説するとともに、収穫・調整作業をサポートした。			
結果と今後	○小学生からは、「農業の大変さと楽しさを学べた」「将来農家になりたい」といった声があり、リアルな体験を通じて、農業への興味・関心を高めさせることができた。 ○本事業の成果等については、東予管内５市町で取組む食育広域連携会で報告し、デジタルを活用した地産地消・食育の取組みとして、他市町にも波及していく。			

左：小学生に説明する生産者
右：収穫を体験する小学生

標　題	新規栽培希望者へ「ひめの凜」を説明		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月５日	場所	JA えひめ未来(新居浜経済センター、西条あぐりセンター)	
指導対象	JA えひめ未来　栽培希望者（24 人）	連携機関	JA えひめ未来 農産園芸課	
普及指導内容	○高温耐性の低い「ヒノヒカリ」に代わり、品質面、販売面で有利な「ひめの凜」の導入が注目されていることから、新規栽培を希望する農家に対し、栽培管理、認定制度等を説明した。 ○当室から、令和６年産の普通期水稲である「ひめの凜」と「にこまる」が「ヒノヒカリ」に対し、１等比率が高いこと及び令和６年産の生育状況、病害虫の発生とその対応状況を説明。農産園芸課からは、「ひめの凜」栽培者認定制度について、認定要件やプレミアムクオリティ基準を説明した。			
結果と今後	○今後、「ひめの凜」の新規栽培に取り組む農家は、栽培認定申請書を JA に提出することとなる。 ○当室は、新規栽培者に対し、個別で説明するとともに、令和７年産の水稲全般について、JA 担当者と協議しながら品質向上対策を指導していく。			

説明会の様子

標　題	ブランド茶「結の霧ひめ」で「うま茶」の販路拡大・PR		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和６年 12 月５日～６日	場所	広島県呉市	
指導対象	うま茶振興協議会茶業販促グループ	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	○「結の霧ひめ」をはじめとする「うま茶」の販路拡大・PR のため、令和６年度「儲かるモデル産地育成システム確立実証事業」を活用して、県外での販促活動を支援した。 ○今回は、大西茶園が広島県呉市の百貨店の催事に出店し、茶の試飲や加工品の試食、茶の量り売り等を行った。特に、茶葉の質感、香り、味等、茶の種類や特徴を消費者に伝えることで、イメージアップと購買意欲の向上を目指した。			
結果と今後	○消費者からは、「甘味と渋味のバランスがよい」「香りに惹かれる」「茶葉の形状や色味がよい」等の高評が得られ、「うま茶」の魅力を発信することができた。 ○引き続き、生産者の顔が見える販売活動や、県外等における販促活動を支援するとともに、消費者が茶に興味を持ち家庭等で楽しみながら茶を飲む習慣が定着し、産地が更に活性化する取組みを進めていく。			

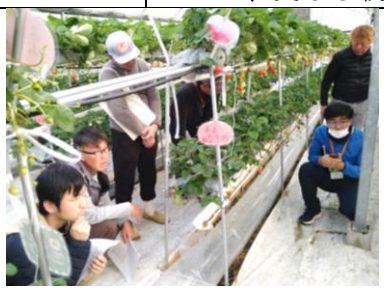
左：呉市内百貨店でうま茶の販売・PR

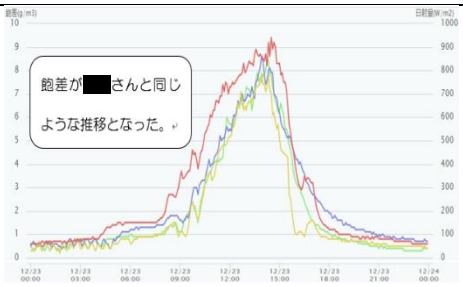
右：結の霧ひめ等の特徴を説明

標　題	**農業女子が出前授業で農業の魅力発信**		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和６年 12 月 19 日	場所	四国中央市立川之江北中学校	
指導対象	さくらひめ四国中央会（２人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	○職業選択について考え始める中学２年生（126 人）が、農業に興味を示すことを目的に、農業女子が企画した「食と農業」をテーマに２回目の出前授業を支援した。 ○今回は、当班が四国中央市の農業の歴史や特徴を説明した後、会員が米とさといもを主要品目として生産する農業経営や農業の魅力について熱く語った。 ○このほか、朝収穫したねぎと、スーパーで販売されている刻みねぎの食べ比べを行った生徒は、新鮮なねぎほど香りが強いことを体感していた。 ○また、今回は、１回目の出前授業の内容を含めたアンケート調査を実施した。			
結果と今後	○結果、出前授業は「よかった」100 人、「ふつう」3 人、農業のイメージが「変わった」95 人という回答を得、農業を身近に感じてもらうきっかけとなった。 ○また、33 人が「将来農業をしてみたい」と回答し、そのほとんどが兼業ではあるが、農業を職業として考える働きかけができ、農業の魅力発信につながった。 ○今後、会員及び中学校の意向を確認し、次年度の出前授業の実施について検討する。			

左：会員が自身の農業経営を説明
中：「ねぎ」の食べ比べ
右：中学生が栽培したねぎ

標　題	**いちご栽培環境モニタリングデータ活用実証プロジェクト勉強会を開催**		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和６年 12 月 27 日	場所	西条市玉津	
指導対象	いちご生産者（８人） （実証生産者６人、農業指導士１人）	連携機関	JA（周桑、えひめ未来） モニタリング機器メーカー	
普及指導内容	○実証生産者等を対象に、栽培データ等を活用して栽培管理の最適化を図る環境制御技術の現地勉強会を開催した。 ○今回が３回目で、日射量や草勢に合わせた温度管理方法等を指導した。 ○また、環境制御技術を先駆的に導入した農業指導士のほ場を視察し、暖房の効果を高めるダクトの敷設方法や、細根の分布からかん水法の適否を判断する方法を学んだ。			
結果と今後	○実証生産者は、勉強会を重ねるごとに早期加温や日中の換気方法の改善を繰り返し、手本とする農業指導士の温湿度等のグラフの形に近づいてきた。 ○勉強会は今後も２週間に１回実施する予定で、生産者は本勉強会で学んだことを生かして、更なる栽培管理の改善を行うこととしている。			





農業指導士の説明を聞く生産者　**細根の分布を確認**　**農業指導士（赤）と実証生産者のグラフ**

標　題	**大型直売所の隣にいちご観光農園がオープン**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月 21 日	場所	今治市中寺	
指導対象	農事組合法人サポート中寺	連携機関	JA おちいまばり、今治市	
普及指導内容	○集落営農組織「農事組合法人サポート中寺」と JA 直売所「さいさいきて屋」は、２年前から準備を進めてきた観光農園「しまなみいちご園」をオープンした。 ○当室は、両者が同園を県内外の観光客を集客できる食のテーマパークとして整備する活動を支援しており、開園に向けて栽培から運営管理等をサポートしてきた。			
結果と今後	○当日は、地元関係者の約 60 人が新たな観光資源のオープンを祝い、JA おちいまばり渡部理事長は「暖かなハウスで笑顔を鈴なりにしてほしい」とメッセージを送った。 ○当室は、同園の運営支援等を通して、引き続き、地域農業の担い手となる集落営農組織の育成や直売所の集客力の向上等を図る。			

観光農園の案内

いちご狩りを楽しむ

挨拶する集落営農組織代表

標　題	**４ｔどりを目指すための新たな取組みを周知**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月 24 日	場所	JA おちいまばり営農経済事業部 会議室	
指導対象	さといも栽培者（25 人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○さといも単収４ｔ どりを目指すために、優良種芋の更新、初期管理の新たな取組みを周知するための講習会を開催した。 ○優良な種芋を安定的に確保するため、当室が考案した低コストで農業者でも容易に取り組める「親芋直接採取法」について、実証結果をもとにメリット等を説明した。 ○また、一部ほ場で見られた萌芽不良について、溝切による排水対策など基本技術を指導するとともに、資材メーカー等関係機関と開発したスリットマルチの検証結果を報告した。			
結果と今後	○当室では、「親芋直接採取法」について、萌芽揃い等の課題解決のため、大手ガスメーカー等と親芋にエチレンガスを添加する実証を開始しており、今後、その効果等を検討する。 ○また、スリットマルチについては、大規模生産者が 1.2ha での導入を決定した。			

さといも４ｔどり講習会

スリットマルチの説明

エチレンガス添加実証

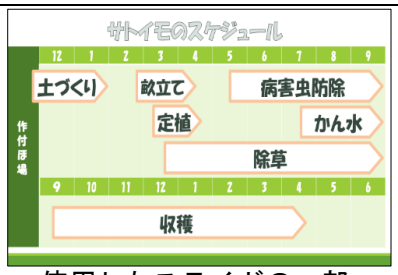
標　題	農福連携による収穫作業体験会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月 10、11 日	場所	今治市乃万	
指導対象	NPO 法人アクティブマインド 11 人、 温州みかん生産者２人	連携 機関		
普及指導 内容	○当室のマッチングにより農福連携事業に取り組んでいる就労支援施設「アクティブマインド」とさといもやかんきつを栽培する「PINZA FARM」（八木良太代表）は、施設利用者を対象とした温州みかん収穫作業の体験会を開催した。 ○両者は、既にさといもの収穫作業に取り組んでおり、施設利用者からも好評であったこと等から対象品目を拡大することになったもので、当室は事前に同施設の支援員と収穫手順を確認するとともに、当日は、利用者が安全に作業できるよう支援した。			
結果と今後	○同施設では、利用者が楽しく安全に作業を進めることができたとし、両者は作業契約の対象作物に温州みかんを正式に追加することになった。 ○当室は引き続き両者の活動を支援するとともに、農福連携活動の普及を推進する。			

農福連携による温州みかんの収穫作業「収穫作業はやっぱり楽しい！」←写真

標　題	次年度のさといも栽培希望者説明会の開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月 14 日	場所	JA おちいまばり営農経済事業部 会議室	
指導対象	さといも栽培希望者（５人）	連携 機関	JA おちいまばり	
普及指導 内容	○次年度の新規さといも生産者の確保・育成を目的とし、さといも栽培希望者説明会を開催した。 ○当室は、産地紹介や新規生産者へのサポート体制を説明後、映像「さといもの主な作業の紹介」を活用して年間作業スケジュールと高収量・安定生産を目指すための重要な作業ポイントを指導した。 ○あわせて、初期生育に影響するほ場選定から定植までの早期準備について重点的に指導し、農業所得が黒字となる１人当たり単収３t を目指すことを啓発した。			
結果と 今後	○参加者からは「さといもに適した堆肥を教えてください」「果樹農家でもさといもを栽培できますか」等の具体的な相談があり、さといも栽培に前向きな様子が窺えた。 ○次年度は、新たに約 30ａ作付けが見込まれ、栽培面積 40ha に返り咲くために関係機関と連携して更なる新規生産者の掘り起こしを図りたい。			

当室が監修した動画の一部

新規採用職員も説明



使用したスライドの一部

標　題	上島町生活研究グループ員が６次産業の成功事例を学ぶ		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和６年 12 月 12 日	場所	広島県世羅郡世羅町	
指導対象	上島町生活研究協議会員（13 人）	連携機関	上島町農林水産課	
普及指導内容	○上島町生活研究協議会員 13 人は、広島県世羅町において６次産業ネットワーク活動及び生活研究グループが取り組む６次産業について視察研修を行った。			
結果と今後	○町の立地は異なるが、世羅町での６次産業ネットワーク活動の役割や体制などの説明を聞き、上島町に置き換えた６次産業の推進について考える良い機会となった。 ○生活研究グループが取り組む６次産業の好事例について実施者からの説明や意見交換を通じて、今後の生活研究グループ活動の良い刺激となった。			

左：世羅町の６次産業の取り組み事例の説明を聞く会員

右：加工品等を販売するネットワークが運営する直売所の視察

標　題	しまなみ農業指導班・岩城駐在所で、中学校１年生が農業体験		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和６年 12 月 2 日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	上島町立岩城中学校１年生（19 人） 上島町立弓削中学校１年生（18 人）	連携機関		
普及指導内容	○岩城、弓削両中学校１年生が、島特産のかんきつ類に関する学習の一環として、中生温州みかんの収穫作業を体験した。 ○当班から、夏に実施した摘果作業以降の生育状況について説明した後、収穫作業の手順を解説し、生徒だけで中生温州全果実を収穫した。			
結果と今後	○収穫作業は生徒たちにとって楽しく熱心に取り組み、時間内に終えることができた。 ○試食も好評で事後アンケートでも「岩城のみかんをもっと食べようと思った」と地元農産物への意識を高めることができた。 ○岩城橋開通により昨年度から弓削中の参加が実現し、「今後も是非実施したい」と教職員から強い要望があった。			

実証ほで収穫体験作業の様子

標　題	しまなみイタリア野菜イベントを開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和６年 12 月 14 日	場所	イタリア野菜生産者圃場	
指導対象	イタリア野菜生産者	連携機関	JA おちいまばり、トキタ種苗（株） ロカンダ・デル・クォーレ	
普及指導内容	○イタリア野菜の周知とブランド定着を進めるため、JA おちいまばり直売所「さいさいきて屋」の店頭にて「しまなみイタリア野菜イベント」を開催した。 ○イベントでは、直売所の来場者を対象に、「カーボロネロ」を使用したミネストローネの試食と、「カーボロネロ」を含む９品目のイタリア野菜の販売を実施した。			
結果と今後	○イベントでは、想定以上の方に試食・購入をしていただき、予定より１時間 30 分以上も早く完食・完売となり、盛況のうちに終了した。 ○イタリア野菜を初めて目にする来場者が多かったが、試食の提供やレシピカード配布での食べ方説明を対面でしたことで、今回の結果に繋がったと考えている。 ○12 月から来年１月にかけて開催している飲食店でのイベントと合わせて、今後もしまなみイタリア野菜の周知とブランド定着を進めていく。			

左：イベント実施状況

右：カーボロネロについて説明

標　題	土着天敵を施設トマト・きゅうり栽培にも導入		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月３日、26 日	場所	東温市北吉井、砥部町	
指導対象	なす生産者（31 人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導内容	○両 JA のなす部会反省会で、環境にやさしい防除技術として、本年度の土着天敵タバコカスミカメの導入状況を報告。 ○また、露地なす、施設トマト（夏秋）及び施設きゅうり（促成）を対象とした実証結果と、次年度に向けた天敵利用技術を推進した。			
結果と今後	○天敵を導入していない生産者からは、「次年度は導入を検討したい」との声が多数聞かれた。 ○本年度の土着天敵利用者は、なす 25 人（うち施設 15 人）、施設トマト２人、施設きゅうり３人の計 30 人、導入面積は約 2.3ha（前年約 1.8ha）となった。 ○なお、JA えひめ中央のなす、きゅうり、トマト等の部会では、12 月にエコファーマーの団体認証を受けるなど、減農薬に関する意識が高まっている。			

左：促成きゅうりへの天敵放飼

右：天敵及び病害虫調査（トマト）

標　題	JA 新規就農研修センターにおける研修生の就農支援について協議		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月 26 日	場所	JA えひめ中央東部営農センター	
指導対象	―	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	○令和７年４月に東温市で開所する JA えひめ中央新規就農研修センター南部研修園(野菜ほ場 3.3ha）での研修生への就農支援方策について、当室と JA の担当者で協議。 ○当施設は、施設いちごをメインとした野菜や水稲、花木の実践技術の習得を目指して、新たに整備するもので、来年度は７人（新規５人、継続２人）の就農希望者が研修する予定。 ○研修ほ場の整備状況を確認した後、就農・定着に向けた課題や今後の研修生の募集に向けた取組みのほか、研修カリキュラムや栽培品目に関する技術支援、役割分担等について対応方針を共有した。			
結果と今後	○本研修施設については、就農相談会はもとより、JA の HP や SNS 等で広く PR し研修生の確保に努める。 ○研修カリキュラムには、基本技術や経営管理等の知識のほか、スマート農業や農業 DX、みどり戦略、GAP 等の講義も取り入れ、当室も高度なスキルの習得に協力する。 ○いちご栽培では技術指導と合わせて、将来的には環境モニタリング機器によるデータを活用した最適な栽培管理による生産性の向上を目指す。			

左：新たに整備している野菜の研修センター
右：今後の運営について協議

標　題	農福連携の推進に向けた施設支援員の技術力向上		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月 20 日	場所	松山市潮見地区	
指導対象	福祉施設支援員（７人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	○農作業における労働力確保と障がい者の農業分野での活躍を通じて社会参画を実現する農福連携を推進するため、支援員の技術力向上を目指した研修会を開催。 ○研修会では、農福連携の取組み事例の紹介や、障がい者が農作業に従事するうえでの課題について意見交換した。 ○また、農福連携に取り組んでいる農業指導士の指導の下、実際に伊予柑の収穫作業を体験した。			
結果と今後	○参加者からは、「作業する園地にはトイレがあると便利」「松山市以外の近隣市町へも依頼があれば対応できる」などの意見が寄せられたほか、JA からは農福連携に関心を持つ農家が増えており、来年度以降、取組みを拡大したい旨の報告があった。 ○今後も、セミナーによる啓発やマッチングをとおして、農福連携を推進する。			

農福連携の取組みを紹介

農業指導士が収穫方法を指導

支援員による収穫体験

標　題	**集落営農組織が優良農事組合法人で研修**		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和６年 12 月 18 日	場所	西予市宇和町加茂	
指導対象	伊予地区集落営農組織等連絡協議会会員（17 人）	連携機関	西予農業指導班	
普及指導内容	○集落営農組織の経営安定とネットワーク機能の強化を図るため、西予市の農事組合法人加茂ファームで組織運営について意見交換を実施。 ○同法人からは、集落営農組織の維持発展のポイントとして、担い手の確保・育成や収益性の高い野菜の導入、高性能機械導入による省力化などを組織内で十分に話し合うことが重要であると説明があった。			
結果と今後	○参加者は、任意組織や法人設立時のきっかけや苦労話、担い手確保の進捗状況、今後取り組む作物、現在導入している農業機械の状況などについて熱心に質問し、今後の組織運営のヒントを得た。 ○当指導班では、引き続き各会員の課題解決に努めるとともに、経営の安定化を図り、農地の維持と地域農業の活性化を目指す。			

左：活発に行われた意見交換

右：大豆ほ場の見学

標　題	**伊予農業高校で就農啓発活動**		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和６年 12 月 19 日	場所	県立伊予農業高校	
指導対象	伊予農業高校生（37 人）、農業指導士・青年農業者等（３人）	連携機関	伊予市農業振興センター	
普及指導内容	○新規就農者の確保に向け、就農や農業分野への進学に興味のある高校生を対象に、就農啓発交流会を開催。 ○交流会では、当班から就農までの流れや支援制度等について説明した後、農業指導士や青年農業者、新規就農者がそれぞれの経営内容や就農の経緯、農業の魅力等を発表し、生徒らと意見交換を行った。			
結果と今後	○生徒からは、「施設栽培の初期投資はどれくらいかかったか」「やりがいを感じるまで何年かかったか」などの就農に向けた具体的な質問があがり、農家は自身の経験を踏まえ回答した。 ○今後も生産現場の見学や農家でのインターンシップ等より、就農意欲を醸成するとともに、若い世代の就農希望者確保に向け、農業の魅力発信に取り組む。			

左：農業の魅力等を発表する農業指導士

右：生徒の質問に答える青年農業者

標　題	ピーマンの肥料コスト低減に向けて		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和６年 12 月９日	場所	久万高原町久万	
指導対象	ピーマン部会役員（14 人）	連携機関	久万高原町、JA 松山市	
普及指導内容	○６年産ピーマンの生産量と販売実績及び次年産の栽培指針等について検討。 ○当指導班からは肥料コスト低減栽培実証試験結果として、現行施肥体系より 12,000～25,000 円/10a 安価な施肥体系でも現行と同等もしくはそれ以上の収量を確認できたことを報告。 ○今年は、生育前半は長雨・日照不足、生育後半は酷暑等の影響で生産量は伸びず、部会の出荷量は 402.6ｔ(前年比 82%)で、部会平均単収は 5.4ｔ/10a(前年比 86%)となったが、全国的な品薄の影響で平均単価は 653 円/kg(前年比 117%)と高く推移し、販売額は 2.63 億円となった。			
結果と今後	○資材高騰が続く中、同試験を２か年実施した実証結果から、新たな施肥体系へ見直す方向となったが、指針への掲載は現行肥料の在庫状況を踏まえ、次回の見直し時に検討することとなった。 ○近年、生産者の減少が進み 105 人となっていたが、販売単価の上昇による栽培意欲の高まりにより来年は４人増加する見込み。 ○新規栽培者や単収が低い生産者を中心に指導を行い、単収アップによる所得向上を目指す。			

左：低コスト肥料栽培の栽培実証

右：実績検討会で実証結果を報告

標　題	上浮穴高校生が雑穀の脱穀作業を体験		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和６年 12 月 12 日、13 日	場所	久万高原農業指導班	
指導対象	県立上浮穴高校生（５人）	連携機関	久万高原町、県立上浮穴高校	
普及指導内容	○上浮穴高校では地域食材である雑穀の普及・継承活動を行っており、今年度から当指導班が提供した種子を使用して、同校のほ場で「たかきび」と「地とうきび」の栽培を開始している。 ○収穫後の作業である「たかきび」の脱穀、選別、とう精及び、「地とうきび」の脱粒及び選別について、当班の指導のもと作業を体験し、雑穀栽培の理解を深めた。			
結果と今後	○同校では、「地とうきび」を“ひきわり”や“はなこ”に製粉加工し、とう精した「たかきび」と併せて新たな商品開発等を目指す。 ○また、循環型農業を意識した活動を展開するため、雑穀の残さやぬかは堆肥の材料として有効活用する。 ○雑穀の普及・継承に関する取組みが評価され、同校はえひめ地域活力創造センター主催の「えひめ地域づくりアワード・ユース 2024」で最優秀賞を受賞した。			

左：「たかきび」の脱穀

右：「地とうきび」の脱粒後の選別

標　題	**さくらひめ第１回現地検討会を開催**		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和６年 12 月５日	場所	松山市、東温市の生産ほ場	
指導対象	さくらひめ生産者（３人）	連携機関	市場（(株)大田花き、(株)愛媛花市場）、JA（松山市、えひめ中央）、農産園芸課、県農林水産研究所	
普及指導内容	○地方局予算「さくらひめ産地強化事業」において、卒業式等の需要期出荷を目的に夏季自家育苗技術の実証に取り組んでいる。 ○実証ほの生育状況を確認するため、生産者と JA、東京・愛媛の市場関係者等が現地確認と意見交換を実施した。			
結果と今後	○実証区は気温の高い９月に育苗を行ったが、播種後の冷蔵庫等での育苗の結果、発芽や苗の生育は良好で、予定どおり 10 月下旬に定植を実施できた。 ○検討会では、実証区は慣行区（11 月定植）と比べ生育が進んでおり、引き続き栽培管理を徹底することで、需要期出荷が見込めることを確認した。なお、９月定植（購入苗）については、12 月５日から出荷開始となった。 ○生産者間での栽培管理に関する協議を行ったほか、市場への切り花品質や規格に係る質問等、活発な意見交換が行われた。 ○今後は出荷時期となる２月下旬に第２回現地検討会を開催し、実証結果の報告と今後の推進について検討する。			

左：市場関係者等と意見交換
右：出荷前のさくらひめ

標　題	**郷土料理づくり等で小学生と交流**		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月６日	場所	宇和島市立清満小学校	
指導対象	宇和島市生活研究協議会津島支部（６人）	連携機関	宇和島市	
普及指導内容	○宇和島市生活研究協議会は、宇和島市立清満小学校児童を対象にえひめ食文化普及講座を開催し、郷土料理づくりを通して食文化の普及・継承を行った。 ○当室から「農の学習　津島町の農業について」と題して、地元農産物の栽培状況等をクイズ形式で児童らにわかりやすく紹介した。			
結果と今後	○参加した児童からは、「郷土料理の作り方がわかってよかった」「津島町で大豆が栽培されているのを知らなかった」等の意見があり、次代を担う児童らに、調理実習を通して食文化への理解促進が図られた。 ○当該講座は今年度２回目（宇和島市立立間小学校で７月に実施）となるが、いずれも小学校から継続要望が上がっており、開催に向け引き続き生活研究協議会と連携していく。			

左：鯛そうめん作り
右：農の学習

標　題	**鳥獣害対策の技術向上を図る！**		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和６年 12 月 20 日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	北宇和地区農業技術者連絡協議会員（35 人）	連携機関	JA えひめ南、宇和島市、鬼北町、松野町、共済組合、	
普及指導内容	○北宇和地域では、農作物への鳥獣被害が例年になく多く発生したことを踏まえ、関係機関で構成される同協議会において、鳥獣被害対策の技術向上や、地域ぐるみでの対策の重要性や、補助事業の活用等について研修会を開催した。 ○研修会では、愛南地区の地域ぐるみ対策事例や、各市町の補助制度について情報提供を行った。また、鬼北町に整備されたペットフード加工施設等でのイノシシ・シカ捕獲後の処理について研修した。			
結果と今後	○補助事業の活用について、関係機関から生産者に向け情報を発信していくこととし、１月に開催予定の JA えひめ南柑橘生産推進大会において、鳥獣害対策や補助事業の活用について研修を行う予定としている。 ○一方、狩猟者は捕獲後の処理に苦慮しているケースが多いため、同施設の活用促進に向け、会員から積極的に情報発信することとした。			

左：熱心に研修を受ける協議会員

右：捕獲後の処理を説明

標　題	**調理における衛生管理を再確認**		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和６年 12 月 12 日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	鬼北地区生活研究協議会員（19 人）	連携機関	鬼北町、松野町	
普及指導内容	○生活研究協議会の活動では食農教育やイベント出展など調理実習を行う機会が多いことから、調理時における衛生管理の重要性及び管理技術手法を再確認するため、同協議会員を対象に衛生管理研修会を開催した。 ○宇和島保健所職員から、食品の扱い方や注意点、調理環境及び手洗い方法等について詳しい説明があった。			
結果と今後	○参加者からは「細菌は食材や環境の至るところに存在することに驚いた」「集団活動の時だけでなく、家庭でも活用したい内容だった」などの感想が聞かれ、衛生管理についての知識を深めることができた。 ○同会では、今後とも衛生管理を意識した活動を展開する。			

熱心に説明を聞く参加者

標　題	**食味良好！鬼北産「紅まどんな」**		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和６年 12 月 26 日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	「紅まどんな」生産者、北宇和高校教諭	連携機関	県立北宇和高校	
普及指導内容	○当班では、温暖化を逆手に取った鬼北地域での「紅まどんな」普及に向けた栽培実証を進めており、３人の生産者が早期成園化に取り組んでいる。 ○当班実証栽培で課題となっていた、果皮障害の一種であるクラッキングの発生や糖度不足の点で改善が見られたことから、生産者の栽培意欲向上を目的に「紅まどんな」の試食会を開いた。			
結果と今後	○「大玉だが十分甘くジューシー」「果皮もそれほど厚くなく、見た目も綺麗」「苗木を購入したい」といった声が聞かれるなど、生産者の不安払拭につながった。 ○今年度は着色遅れ等によりクラッキングの発生はなかったが、果皮障害軽減効果のあるジベレリン散布効果の確認など、来年度以降も継続して実証を行い、更なる正品率向上に取り組む。			

左：当班実証ほ場で収穫された「紅まどんな」
右：鬼北産「紅まどんな」を試食する生産者

標　題	**農業の担い手確保・育成に係る研修枠組みを検討**		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和６年 12 月 24 日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	－	連携機関	松野町、鬼北町、各町農林業公社、JA えひめ南	
普及指導内容	○松野町農林公社及び鬼北町農業公社は、それぞれが独自の研修制度を長年運用し、新規就農者の確保につなげてきた。 ○昨年度から「担い手の確保・育成に係る体系的な研修方法の検討会」を３回開催し、両公社の既存の研修制度を補完する新しい研修カリキュラムの検討を進める中、国や県の研修制度との区分けや整合性における問題点が明らかになった。 ○今回、問題点への対応や、今後の活動の進め方、新研修枠組み（案）（オプションとしての研修メニュー）等について提案し、松野町、鬼北町、両公社、JA えひめ南と協議した。			
結果と今後	○町公社の研修で扱っていない品目・内容については、これまで通り他町や JA、県が柔軟に対応するほか、町公社での基幹的な研修カリキュラムに加えて、JA えひめ南や当班が提供可能なオプションメニューを充実することを申し合わせた。 ○次回は３月にオプションメニューの内容を検討する予定。			

関係機関との協議

標　題	端境期出荷を促す栽培講習会（第２弾）を開催		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和６年 12 月４日	場所	三間公民館（宇和島市三間町）	
指導対象	道の駅みま出荷者（20 人）	連携機関	道の駅みま、伊予農産（株）	
普及指導内容	○道の駅みまに出荷される農産物の端境期（３月～４月）において出荷量の確保と新たな出荷品目の創出を図るため、９月に開催した冬春野菜栽培講習会の第２弾として、外部講師を招致のうえ、既存・新規品目の栽培特性や冬季管理に焦点をあてた栽培講習会を開催した。 ○開催にあたっては、当室が中心となって関係機関と協議し、周辺地域よりも冬季の温度が低い三間地区の栽培環境や過去の販売状況等を考慮して、小松菜、かぶ、ほうれんそう等の品目と品種を選定した。 ○また、今後の講習会について、講師は外部から招致することとし、現地巡回を当室と同施設が連携しながら行う等、役割分担を明確にした。			
結果と今後	○各品目の特性を理解して栽培している生産者は少なく、現地巡回の際にも「今後勉強してみたい」といった要望を確認した。 ○端境期の出荷に向けては冬季管理がポイントとなるため、関係機関と連携した現地巡回を通じ、栽培特性や各種資材情報を提供することで、充実した売り場づくりと生産者の所得向上を目指す。			

左：栽培方法を学ぶ参加者
右：講習会後、参加者ほ場を巡回して指導

標　題	正品率向上を目指して梅の樹形改造を推進		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和６年 12 月 11 日	場所	松野町延野々	
指導対象	うめ生産者（７人）	連携機関	松野町農林公社、松野町梅振興会	
普及指導内容	○松野町の梅は、導入から 20 年以上経過し樹高が高くなっており、作業性の改善と正品率向上が課題である。そこで、冬季管理講習会において、低樹高化と樹冠内部をすかせる樹形改造を指導した。 ○また、令和６年産が不作であったことを受け、その原因と推定される気象要因を説明した上で、収量確保のポイントとして、外周部の結果部位については軽めのせん定に留めること等を指導した。			
結果と今後	○生産者からは「自分ではここまで切れない。しかし、混んでいては農薬もかからないから、すかせることは必要」と樹形改造の必要性を再認識する声が聞かれた。 ○今後は、せん定作業を受託する公社とも連携して樹形改造を進め、またモデル園地において正品率向上を実感してもらうとともに、関係機関と連携して花芽や着果状況を確認し、令和７年産梅の収量予測と販売対策を協議する。			

左：樹形改造の必要性を説明
右：樹高切り下げと樹冠内部
　　をすかしたモデル樹

標　題	いちご天敵放飼で秋冬季害虫を防除		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和６年 12 月 12 日	場所	大洲庁舎	
指導対象	実証農家	連携機関	JA 愛媛たいき	
普及指導内容	○管内のいちご栽培においては、夏秋季の高温が続き、害虫個体数の増減パターンが変化しており、特にアザミウマ類の発生が開花期から増加し、果実への被害が問題となっている。 ○当班では、昨年から推進しているハダニ類の天敵防除に加え、新たな天敵の導入に向けて関係機関と検討を行い、ハダニ類とアザミウマ類の同時防除を目的に、３種類の天敵（チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ、ククメリスカブリダニ）を混合放飼する実証ほ（５a）を設置した。			
結果と今後	○実証農家に対して、天敵の生態や放飼の手順、天敵に影響が小さい農薬を選定して使用することなどを説明し、天敵防除への理解を促した。 ○今後は、害虫の発生状況を定期的に調査しながら、春季に２種類の天敵（チリカブリダニ、ククメリスカブリダニ）を追加放飼する予定。			

天敵放飼する実証農家

標　題	バキューム式収穫システムでゆず収穫・運搬作業を省力化		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和６年 12 月４日	場所	（株）味彩ゆず園地（城川町）	
指導対象	（株）味彩	連携機関	西予市	
普及指導内容	○作業時間の短縮等が期待される「バキューム式収穫システム」によるゆずの収穫・運搬作業が園地で始まった。 ○昨年度の実証で、吸引口から収穫用コンテナまでのエアーホース（塩ビ管）の長さが 10m延びると吸引力が３％程度低下したことを踏まえ、果実がスムーズに流れるよう吸引力を強くし、省力効果を確認した。			
結果と今後	○システムを使用しない場合と比較し、作業時間の短縮が確認されたが、吸引口のサイズが小さく、投入に手間がかかるなどの新たな課題も見つかった。 ○解決に向け、かごなどから直接投入できるよう吸引口を大きくし、奇形果の除去を徹底すれば、これまでの実証から作業時間は半分程度に削減できる見込みである。 ○当班では、今後も省力化につながる機械の導入等を支援していく。			

左：ゆずのバキューム式収穫システム
右：ゆずの吸引

標　題	**温暖化に対応したキウイフルーツのせん定講習会を実施**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和６年 12 月 13 日	場所	西予市内キウイフルーツ園地	
指導対象	キウイフルーツ生産者（15 人）	連携機関	JA ひがしうわ	
普及指導内容	○キウイフルーツの安定生産に向けてせん定講習会を実施し、側枝の更新や残す枝の間隔、誘引方法等について、実演を交えてポイントを説明した。 ○参加者からせん定時期の質問があり、近年は暖冬傾向で、冬季に気温が上がり樹液が早く流動する恐れがあるため、12～１月のできるだけ早い時期に作業するよう指導した。			
結果と今後	○生産者は、収量向上のため適切なせん定方法、時期等について理解を深めることができた。 ○今後も JA と連携して適期防除等の適切な栽培管理を随時指導し、キウイフルーツの安定生産を図っていく。			

左：せん定のポイント説明
右：せん定作業の実演

標　題	**さといも試食を通して栽培面も PR！**		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和６年 12 月７日	場所	西予市宇和町中川	
指導対象	―	連携機関	JA ひがしうわ	
普及指導内容	○西予市が新たなさといも産地であることを PR し、新規栽培者の掘起こしを行うため、JA ひがしうわが主催する「JA まつり」にて、さといもの試食 PR 活動を実施した。 ○「伊予美人」を使った芋炊きの試食や、食味・知名度等のアンケート調査、新規栽培者募集チラシを配布した。			
結果と今後	○準備した芋炊き試食（114 人分）は３時間で完食。アンケートの結果、９割が「とても美味しい・美味しい」と回答。「芋のなめらかな食感が良い」と非常に好評であった。 ○また、「栽培に興味あり」が 11 人、「西予市で「伊予美人」が栽培されていることを知らなかった」が３割と、栽培者の掘起こしや産地 PR にもつながった。 ○今後も、生産者や関係機関と連携しながら新規栽培者を掘り起こし、新たなさといも産地の育成に努める。			

左：試食を手渡す職員
右：新規栽培者募集チラシ

標　題	**媛小春栽培マニュアル策定に向け各技術の実証ほ設置と調査開始**		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室 南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和６年 12 月 19 日～20 日	場所	八幡浜市内	
指導対象	「南予の媛小春」魅力アップ協議会員	連携機関		
普及指導内容	○県オリジナル品種「媛小春」の連年安定生産を目指し、八幡浜市内の園地に、秋せん定、落果防止、鳥害対策の３技術の実証ほを設置し調査を開始した。			
結果と今後	○秋せん定は、夏秋梢（今年の夏や秋に発生した枝）処理の違いで、果実の生産量や品質にどのような影響があるかを次作終了まで継続調査。 ○落果防止対策は薬剤散布の軽減効果を、鳥害対策は高周波発生装置の被害低減効果を、それぞれ調査しているところ。 ○今後、これらの調査結果を媛小春栽培マニュアルに反映するとともに、講習会等で生産者にフィードバックし、栽培技術のレベル向上を図る。			

左：秋せん定処理の違い
右：調査の様子
（目視で被害果や着色状況を調査）

標　題	**首都圏で若手普及指導員の流通・販売研修を開催**		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和６年 12 月 11 日～13 日	場所	大田市場、愛媛県東京事務所、旬菜館　ほか	
指導対象	若手普及職員（６人）	連携機関	(株)ユナイテッドベジーズ、全農えひめ東京事業所、東京事務所	
普及指導内容	○当グループは、首都圏の量販店、青果店、卸売市場において、実需者の仕入動向、県産農産物や加工品の評価等の調査および青果店での販促活動などの研修を実施した。 ○販促活動では、首都圏で青果店を展開する量販店の３店舗で実施し、産地および商品情報の発信等の PR を来店者に直接実施した。 ○首都圏実需者の仕入動向や消費動向調査では、県産柑橘、野菜、米、花き、加工品を取り扱う量販店や専門店の仕入れ責任者への訪問聞き取り調査を実施した。			
結果と今後	○「『愛媛県産を売りたい、買いたい』というバイヤーやお客さんの声を直接聞くことができ、業務に対する意欲がより高まった。」「実需者の愛媛県産農産物への信頼の高さを知り、改めて日々の指導の重要性を感じた。」など、若手職員の意識高揚が図られた。 ○今後は、普及指導員調査研究会において研修報告を行うことで、本研修の振り返りによる研修効果の浸透と、職員間での共有を図り現地指導力の向上に活かす。			

左：量販店での青果仕入れ責任者への聞き取り調査
右：販促研修で県産柑橘を来店者に PR

<table>
<tr><td>標　題</td><td colspan="2">第２回普及指導員果樹調査研究会及び JA 愛媛果樹技術指導員会を開催</td><td>機関名</td><td>農産園芸課
高度普及推進グループ</td></tr>
<tr><td>年月日</td><td>令和６年 12 月 18 日</td><td>場所</td><td colspan="2">農林水産研究所果樹研究センター</td></tr>
<tr><td>指導対象</td><td>JA 営農指導員、果樹調査研究会員（46 人）</td><td>連携機関</td><td colspan="2">JA、普及拠点</td></tr>
<tr><td>普及指導内容</td><td colspan="4">○近年、温暖化による高温やカメムシの大量発生など、落葉果樹の安定的な生産を脅かす要因が増加していることから、各産地の生産状況や温暖化への対策・指導状況について情報共有を行った。
○また、農林水産研究所果樹研究センターから落葉果樹の高品質安定生産に向けた整枝・せん定のポイントについてほ場で講習・実演し、普及員の技術力向上を図った。</td></tr>
<tr><td>結果と今後</td><td colspan="4">○各地域の生産上の問題点や実施している対策について情報共有を図ることができた。
○せん定講習を受講した指導員からは「今回学んだせん定のポイントを今後の現場指導に役立てたい」との声があり、技術力の向上がうかがえた。
○今後も関係機関と連携しながら、落葉果樹の高品質安定生産に取り組む。</td></tr>
<tr><td colspan="5">
左：ぶどうの整枝・せん定について説明
右：キウイフルーツの整枝・せん定について説明</td></tr>
</table>

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898－68－7322 FAX:0898－68－3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896－23－2394 FAX:0896－24－3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898－23－2570 FAX:0898－22－9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897－72－2325 FAX:0897－72－1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089－909－8762 FAX:089－909－8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892－21－0314 FAX:0892－21－2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089－982－0477 FAX:089－983－2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895－22－5211 FAX:0895－22－1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895－45－0037 FAX:0895－45－3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895－72－0149 FAX:0895－73－0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894－23－0163 FAX:0894－23－1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893－24－4125 FAX:0893－24－5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894－62－0407 FAX:0894－62－5543